

参加チーム各位

第39回全日本学生ライフセービング選手権大会  
実行委員会

第39回全日本学生ライフセービング選手権大会「BLS アセスメント」について

第39回全日本学生ライフセービング選手権大会における「BLS アセスメント」の実施方法、採点基準、および評価とG2020フローチャートを次の通りとしますのでご確認ください。

記

■ 実施方法

1. BLS アセスメントは、各チーム（男女別）の出場登録されている選手から抽選により2名選出される。出場登録選手が1名の場合は1名で競技を行うこととする。（評価補助員を競技者Bとして競技を行う）。
2. BLS アセスメントは参加必須種目とする。BLS アセスメントに出場しなかった場合、そのチームはチーム総合の表彰対象から除外される。また、BLS アセスメントの種目別表彰は行わない。
3. 選出された競技者（以下、競技者）の氏名は、競技が行われる日の午前7時30分に「本大会専用オープンチャット等に掲示される」
4. 競技者が、なんらかの理由（怪我・病気等）により出場できない場合、午前8時までにBLS アセスメント評価員に申し出なければならない。BLS アセスメント評価員がこれを認めた場合、残りの出場登録選手の中から再抽選を行い、その場で競技者が発表される。
5. 競技は決勝のみとする。各競技者の判断で指定された時間内に競技会場に行き、受付を行った後、BLS アセスメント評価員の指示で競技を開始する。
6. 競技者が他の出場種目の進行状況により指定された時間内に「BLS アセスメント」競技を行えない場合、あらかじめBLS アセスメント評価員に申し出なければならない。原則として、事前の申告なしに指定された競技時間内に受付ができなかった場合、その競技者は失格となる。
7. 競技者は、チームユニフォームを着用の上、参加すること（水に濡れた状態での参加は認められない）。
8. 競技者は受付時に名前と選手番号を申告する。
9. CPR および AED は、レールダル社製 CPR 練習用人形（リトルアン）および同社製 AED トレーナー（FR-2）を用いて行い、反応なし、普段通りの呼吸なし、頸椎損傷なし、途中回復なしの成人に対する処置（胸骨圧迫+人工呼吸+AED）を行うこと。（別紙 G2020 フローチャート参照）。これらの資器材は主催者にて準備する。
10. 人工呼吸はフィルターと一方弁が付いているマスク（ドーム）型のレサシテーションマスク（次ページ参照）を使用すること。シートタイプの感染防護具での参加は認められない。レサシテーションマスクは競技者が準備すること。
11. 競技者 A・競技者 B の指定に関しては、競技開始時に BLS アセスメント評価員より伝える。
12. 競技者は、競技開始前に人形および AED トレーナーを使用して1分間の公式練習を行うことができる。公式練習中に器材の不具合が生じた場合は、速やかに BLS アセスメント評価員に申し出ること。

13. 競技の撮影については、競技後に各チームの振り返りやBLSトレーニングの参考目的であれば、チーム関係者に限り映像を撮影することを許可する。
14. BLS アセスメントの評価（競技結果）に対する抗議は受け入れられない。
15. この他、なんらかの理由で競技に問題が生じた場合は、チーフレフリーが検討し対応を判断する。
16. 競技日の翌日は、競技に参加したチームにフィードバックを行い、評価について説明する。  
C 評価のチームは必ず参加し、手技の改善に努めること。また A、B 評価のチームもフィードバックを受けることを推奨する。

## ■ 採点基準

CPR および AED の処置は、以下のポイントを BLS アセスメント評価員の目視によって採点する。

- ① G2020 フローチャート（別紙参照）通り、正しく進められているか。
- ② 胸骨圧迫、気道確保、人工呼吸の手技は正しく行われているか。
- ③ AED は正しく扱われているか。

## ■ 評価

競技者の CPR および AED の処置は、BLS アセスメント評価員によって、以下の3段階に評価される。また、得点は以下の通りとしチーム総合成績に加えられる。

評価	得点	内容
A	8 点	3つの採点基準が正しく行われていて、特に修正すべき点がない
B	5 点	3つの採点基準が正しく行われているが、注意すべき点がある
C	2 点	3つの採点基準のうち、どれかひとつでも正しく行われていない

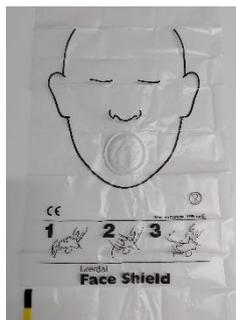
## ■ レサシテーションマスクについて

《使用可能》 マスク（ドーム）型の人工呼吸用感染防護具



写真と同一商品でなくても使用可能だが、フィルターと一方弁が付いているマスク（ドーム）型のもので、救助者と傷病者の間に一定の距離を設けることができるものを使用すること。

《使用不可》 シートタイプの人工呼吸用感染防護具



写真のとおりシートタイプのもので、救助者の口がシートを介して傷病者の口と密着するものは使用不可とする。※中央と右側の写真のように一方弁が付いていても、シートタイプであれば使用不可とする。

(以上)